

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

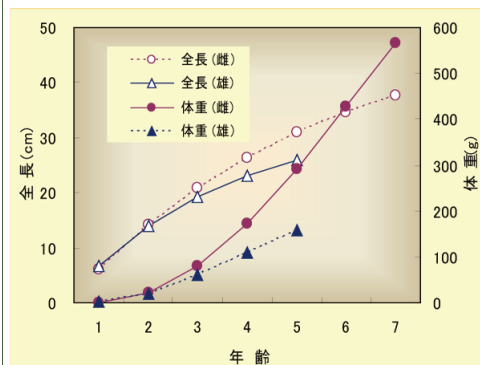
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄5歳、雌7歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

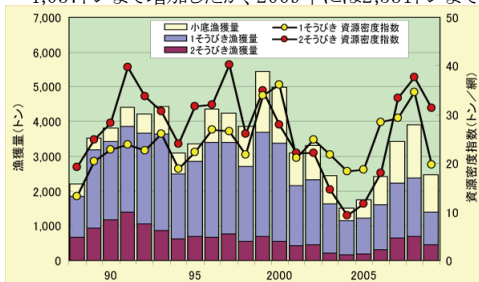


漁業の特徴

日本海西部海域において、ほとんどが1そうびき及び2そうびき沖底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によって漁獲される。1988年以前は沖底の漁獲量が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであったが、1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、小底による漁獲割合が増えつつある。

漁獲の動向

漁獲量は、1980年代から小さな増減を繰り返しながら漸増し、1999年には5,000トンを超えるピークをむかえるが、以後減少し2004年には1980年以降最低の1,510トンであった。2005年以降漁獲量は回復傾向を示し、2008年には4,037トンまで増加したが、2009年には2,531トンまで減少した。



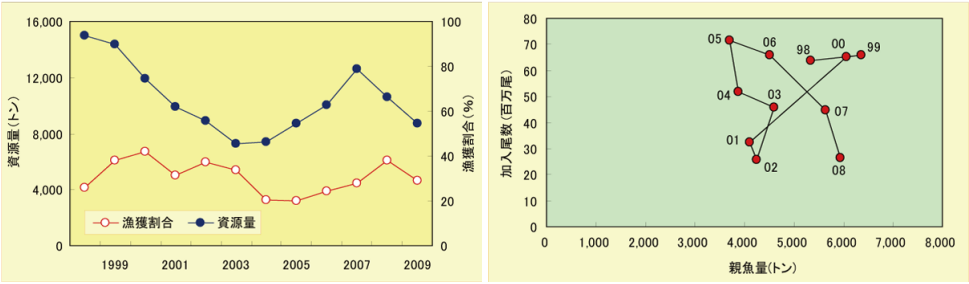
資源評価法

沖底の漁獲成績報告書に基づく資源密度指数及び年齢別漁獲尾数に基づく資源解析(コホート計算)により評価を行った。なお、本種は0歳魚がほとんど漁獲されないため、コホート計算による資源量は0歳魚を含まない漁獲対象資源である。また、資源密度指数は10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)の年計を有漁漁区数で除したものである。

資源状態

1そうびき及び2そうびき沖底の資源密度指数は、2004～2005年に減少した後、2006年～2008年に急増したが、2009年には減少した。資源量は、1998年の15千トンから2003年の7千トンまで減少した後、2007年には13千トンまで増加したが再度減少し、2009年の資源量は9千トンであった。漁獲割合は2004～2005年には20%にまで減少したが、その後増加傾向を示し、2008年には38%まで増加したものの、2009年には29%に減少した。近年の親魚量は比較的高い水準にあるが、加入量は減少傾向にあり、親魚量と加入量の関係には有意な相関関係は見られなかった。



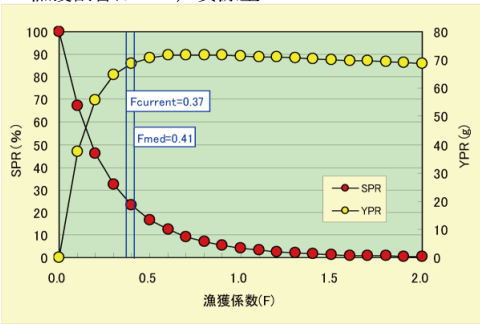


管理方策

資源量は2003年に最低となった後に2007年まで増加したが再度減少した。再生産成功率は2003～2005年にかけて急上昇したがその後低下して2008年には最低を記録したが、親魚量は2009年にはやや減少したものの比較的高い水準を維持している。資源計算を行った最近11年間の再生産成功率が将来も継続する場合に資源量を維持できる漁獲量を提案した。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,700トン	Fmed	0.41	28%
ABCtarget	2,300トン	0.8Fmed	0.33	24%

- F値は各年齢のFの単純平均
- 漁獲割合はABC／資源量



資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばいである
- 加入量は減少傾向にあるが、親魚量は高い水準にある

管理方策のまとめ

- 再生産成功率は低下傾向にあるが親魚量は高い水準にあり、近年の再生産成功率で資源を維持する漁獲圧を保つことが望ましい
- 加入量は減少傾向にあり、若齢魚への漁獲圧を減少させることが重要

執筆者: 木下貴裕・藤原邦浩

資源評価は毎年更新されます。